

第1回

利根川・江戸川有識者会議

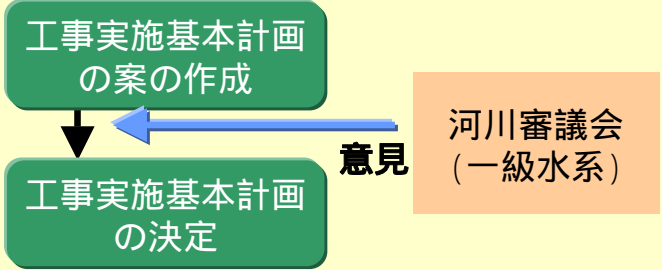
資料 - 1

平成18年12月4日
関東地方整備局

旧制度

工事实施基本計画

内容 基本方針、基本高水、計画高水流量等
主な河川工事の内容

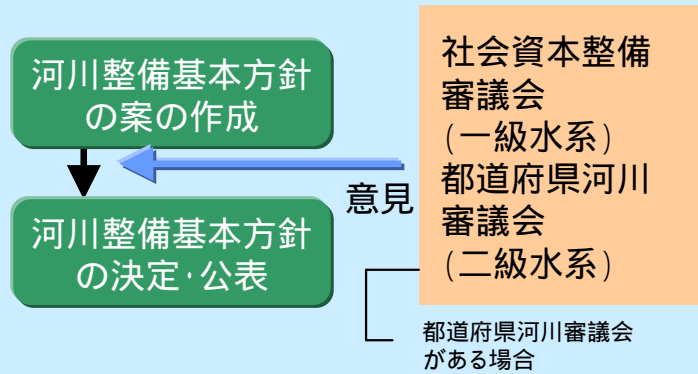


河川工事

新制度

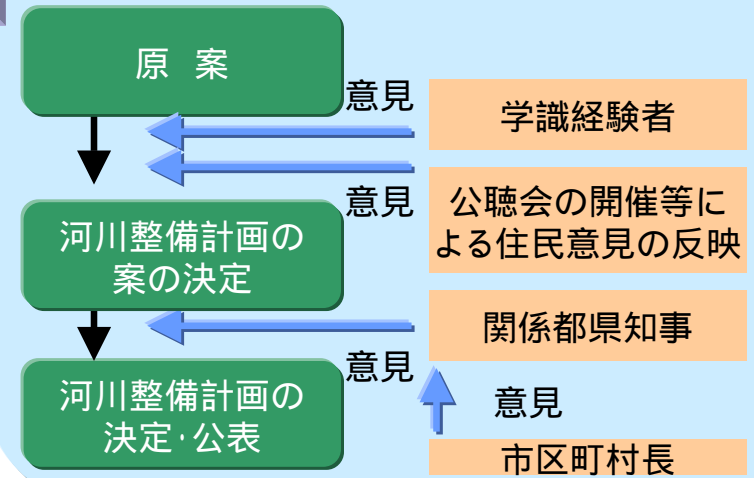
河川整備基本方針

内容 基本方針
基本高水、計画高水流量等



河川整備計画

内容 河川整備の目標
河川工事、河川の維持の内容



河川工事、河川の維持

利根川水系河川整備基本方針の審議経過

国土交通大臣

平成17年 8月26日 付議

社会資本整備審議会

〃 9月 5日 付託

社会資本整備審議会
河川分科会

小委員会
で審議

平成18年2月14日
決定・公表

大臣決定

社会資本整備審議会河川分科会
河川整備基本方針検討小委員会

【平成17年】

10月 3日 (第21回小委員会)
利根川の治水に関する特徴と課題

10月12日 (第22回小委員会)
利根川の水利用及び環境に関する特徴と課題

11月 9日 (第24回小委員会)
治水計画と正常流量の設定

12月 6日 (第28回小委員会)
基本方針検討に関する補足説明
基本方針本文に記載すべき事項について

12月19日 (第30回小委員会)
基本方針の骨子及び本文

社会資本整備審議会河川分科会

平成18年1月23日 (第18回河川分科会)
小委員会における審議報告及び**議決**

基本高水の検証

- ・既定計画策定後の水理・水文データの蓄積等を踏まえ、基本高水のピーク流量を検証
既定計画の基本高水ピーク流量を踏襲することが妥当

高水処理計画の検討

(1) 実現可能性の向上 (一層の合理性、経済性の確保の観点)

- ・長期計画とはいえ、「極めて困難」と考えられるものはできるだけ排除する方向
- ・コスト比較とともに、地域社会への影響も重要なファクター

(2) 既存ストックの有効活用

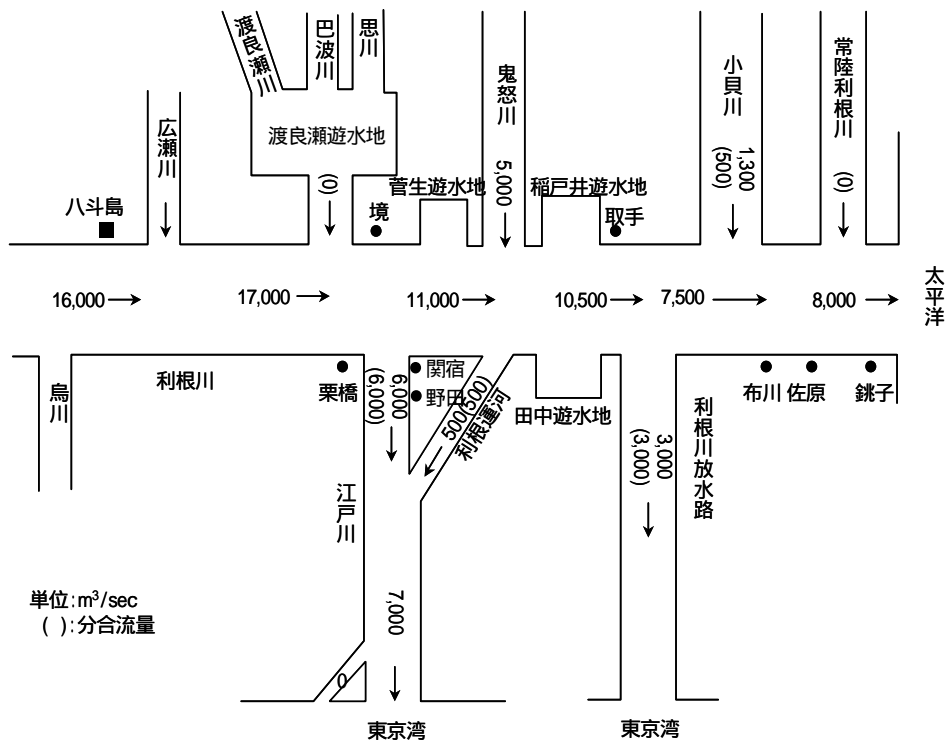
- ・各施設の潜在的なポテンシャルを引き出す(現況河道断面を最大限活用する等)方向
- ・既存洪水調節施設の拡大整備や連携(ダム再編等)、現計画で位置づけのない施設(旧江戸川、印旛沼)等の有効活用による効率性のアップを検討

(3) 現河道計画の概ねの尊重

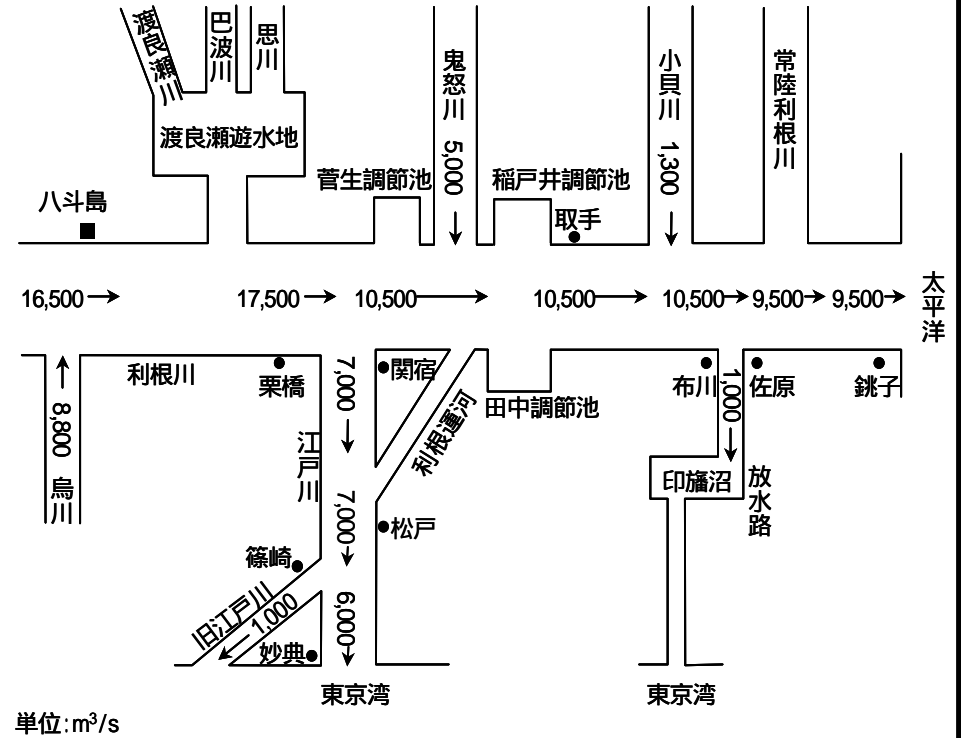
- ・利根川の堤防は長大であり、引堤等の大改修を行うことは「極めて困難」
- ・被害ポテンシャルの増大に配慮し、現行HWLは上げない
- ・既存堤防を前提に沿川の地域社会が成り立っていることにも配慮

工事実施基本計画及び基本方針の計画高水流量図

利根川工事実施基本計画 計画高水流量図

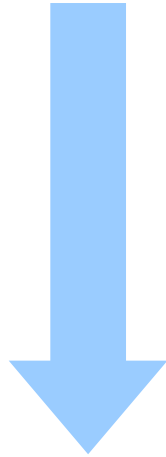


利根川水系河川整備基本方針 計画高水流量図



河川整備計画策定の進め方

意見聴取のための原案の作成



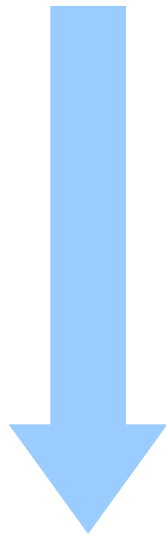
学識者への意見聴取



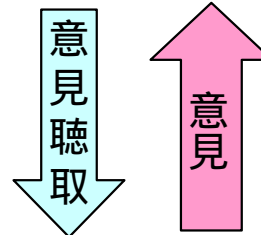
関係住民の意見反映のための措置

公聴会の開催等

意見を踏まえた案の作成



関係都県知事への意見聴取



関係市区町村長への意見聴取

決定・公表

注) この資料は検討途上の資料であり、今後の検討によって変わりうるものである。

目標等について

目標: 将来的な目標(河川整備基本方針)を踏まえ、**段階的な整備**を行う。

本川 : 基本方針1 / 200 …… **整備計画1 / 50**

支川 : 基本方針1 / 100 …… **整備計画1 / 30**

計画期間 : **概ね30年間**

河川整備計画検討の基本的考え方

上・下流、本・支川バランス

流下能力が不足している状況にあることから、**下流部の流下能力に見合った上流部の改修や支川改修による本川への負荷増大が生じないように配慮するとともに、全川にわたり効果が発現する上流洪水調節施設も含め、バランスを考慮した整備とする。**

継続事業の早期完成

現在実施中の事業については、**出来るだけ早期に完成させ、所定の効果発現を図る。**

既存ストックの有効活用

印旛沼の活用やダム再編等、既存施設の潜在的なポテンシャルを引き出し、効率的な施設整備を進める。

危機管理施設の整備

想定を越える外力に対する備えとして、河川防災ステーション等危機管理対応のための施設整備を行う。

堤防の強化

堤防の決壊により甚大な被害が想定される区間における堤防強化の早期完成及び堤防点検の結果、安全度が不足している区間について、安全度の向上を図る。

効果比較

コストと効果比較等を踏まえ事業メニューを選定し、より効率的な事業執行を図る。

利根川・江戸川の現状及び課題

本川上下流・江戸川の現況治水安全度の差が大きい。
(江戸川への分派量が低いことも一因。)
利根川の治水の根幹的な区間である利根川上流部(川俣～江戸川分派)における現況治水安全度はHWL評価で概ね1/30～40程度

近年洪水(水位がHWL以下)において、漏水等の被害が多数発生しているなど、浸透に対する安全性が確保できていない。
従来の計画に対しても断面が不足している区間が多い。

河道の流下能力は小さく、河道流量の増大には膨大な事業費を要する。
既存の洪水調節施設は、奥利根流域に偏っており、様々な降雨パターンに対応出来ない状況にある。

八斗島下流において、支川合流等により河道の負担が大きい。
河道の配分(目標流量)を上げることは、河道の大規模な改変が必要なばかりでなく、事業費も増大。

河川整備計画目標の考え方

上流洪水調節施設の整備及び河道掘削により流下能力の向上により、**治水安全度を向上を図るとともに**、江戸川への分派量増加により**アンバランスの解消を図る**。

破堤した場合に被害が甚大となる利根川・江戸川右岸の区間については、洪水を「**より安全かつ確実に**」**流下させるための堤防強化を行う**。
浸透に対する安全度が不足している区間について、**安全度の向上を図る**。

河道の流下能力の増大とともに上流洪水調節施設の整備を行い、河道と調節施設のバランスのとれた整備を図る。
着手済みの事業の早期完成、洪水調節容量の再編等既存ストックの有効利用を図るとともに河道調節池の整備等の新規洪水調節施設の整備を行う。
洪水調節施設の整備については、流域のバランスに配慮する。

既存の調節池の増強により支川合流による本川への負荷を軽減するとともに、本川流量の調節、下流河道への負荷軽減のための印旛沼を活用した新放水路の整備等、**既存ストックの有効利用を図る**。

目標達成のための主なメニューと改修の進め方の基本的な考え方

八斗島上流

現在着手済みの事業(八ツ場ダム、南摩ダム等)については、**継続実施**により完了し、所定の事業効果を発現させる。

奈良俣ダムと藤原ダムの容量再編を行うとともに、既設ダムの操作ルールの検討を行い、より効率的な調節を行う。

洪水調節施設が少なく負荷の大きい烏川において、**河道内調節池の整備**を行い、**本川負荷の軽減**を図る。

下久保ダムの立地を生かすため、利水容量を治水容量に振り替える。

八斗島下流

現在着手済みの事業については、**継続実施**により早期に完了させ、所定の事業効果を発現させる。

堤防については、**無堤箇所**を解消するとともに、現況堤防高が低い箇所等について嵩上げ等の整備を行い**所定の堤防高を確保**する。

破堤した場合、甚大な被害が発生する首都圏氾濫区域の堤防強化を実施する。

堤防点検の結果、**所要の安全度を確保できていない区間**について、**安全度の向上を図る**。
(首都圏氾濫区域の堤防強化とのバランスに配慮する。)

利根川下流では、**浚渫**、**導流堤撤去**により**河積を拡大**させる。

洗掘・浸食等により**堤防決壊等の危険性が高いと想定される箇所**について、**必要な施設整備を行う**。

新放水路について、**暫定規模として500m³/sを分派させるために必要な施設整備を行う**。

利根川上流では、**渡良瀬遊水地**の掘削により機能を向上し下流への負荷軽減を図るとともに、現在実施中の**稲戸井調節池**の調節池化に加えて掘削を行い、**田中・菅生調節池**の越流堤移設により機能を向上させ、**取手地点において8,500m³/sとする**

江戸川では、分派率の改変に向け、**河道掘削**により**5,000m³/s対応の河積を確保**するとともに、**行徳可動堰のゲート補修**や老朽化により耐震面で問題のある**江戸川水閘門の改築等の構造物対策を適切な時期に実施**する。そのうえで、**流頭部の改修**を実施し、適切な分派形態を実現する。

利根大堰～渡良瀬川合流点及び江戸川分派下流の**河道掘削**、並びに**江戸川への分派対策**の実施時期については、利根川下流及び江戸川の整備状況と整合を図る。

想定を越える外力に対する備えとして、**防災ステーションの整備等**、**危機管理対策**を実施する。

自治体等と連携して行う事業等について、適宜実施する。

事業実施にあたり、調査・検討を要する事項

操作ルールの設定

既設ダムの有効利用の観点から、現況及び将来のより効果的な操作ルールを検討する。

振り替え用ダムの検討

下久保ダムの利水容量を治水容量に振り替えるため、利水上有利な奥利根流域を対象に利水容量を確保するための施設について検討する。

導流堤の撤去

導流堤撤去による断面拡大に伴い、堆積傾向が生じる恐れがあることから、洪水時の水理特性について把握し、河口部の河床安定、維持管理のあり方も含め、導流堤の扱いを検討し、早期に撤去を行う。

利根川下流部の浚渫

洪水時における河床変動等、水理特性について把握し、必要な掘削規模を検討する。

江戸川流頭部の改修(分派率の改善)

分派機構を解析し、適切な分派率を確保・維持していくための最適な手法について検討し、対策メニューを整理する。

改修にあたっては、江戸川の整備状況を踏まえ、実施時期を判断する。

施設計画の詳細検討

新放水路、烏川調節池等所定の効果を確保するための施設計画について調査検討を行う。

洗掘対策

布川地区や権現堂地区等、洪水を安全に流下させるための手法について検討し、対策を実施する。

現状及び課題

無堤区間が多く残っている。
上流部及び中流部の区間において河積不足により流下能力が低く、治水安全度は1 / 10程度。
中流部から下流部にかけては高水敷が広く、合流点付近では洪水時に自然遊水している。

河川整備計画目標の考え方

築堤による無堤の解消、掘削による河積拡大を図り、流下能力を向上(概ね1/30流量)させる。
広い高水敷を活用した河道内調節池を整備し、下流への負荷を軽減し、利根川本川の安全度を向上させる。

目標達成のための主なメニューと改修の進め方の基本的な考え方

現在着手済みの事業については、継続実施により完了し、所定の事業効果を発現させる。

堤防については、無堤箇所を解消するとともに、現況堤防高が低い箇所等について嵩上げ等の整備を行い所定の堤防高を確保する。

また、堤防点検の結果所要の安全度を確保できていない区間について、安全度の向上を図る

流下能力が不足している上中流部について河道の掘削を行い、所要の流下能力を確保する。

洪水調節施設が少なく負荷の大きい烏川において、河道内調節池の整備を行い、本川負荷の軽減を図る。

想定を越える外力に対する備えとして、河川防災ステーション等危機管理対応のための施設整備を行う。

自治体等と連携して行う事業等について、適宜実施する。

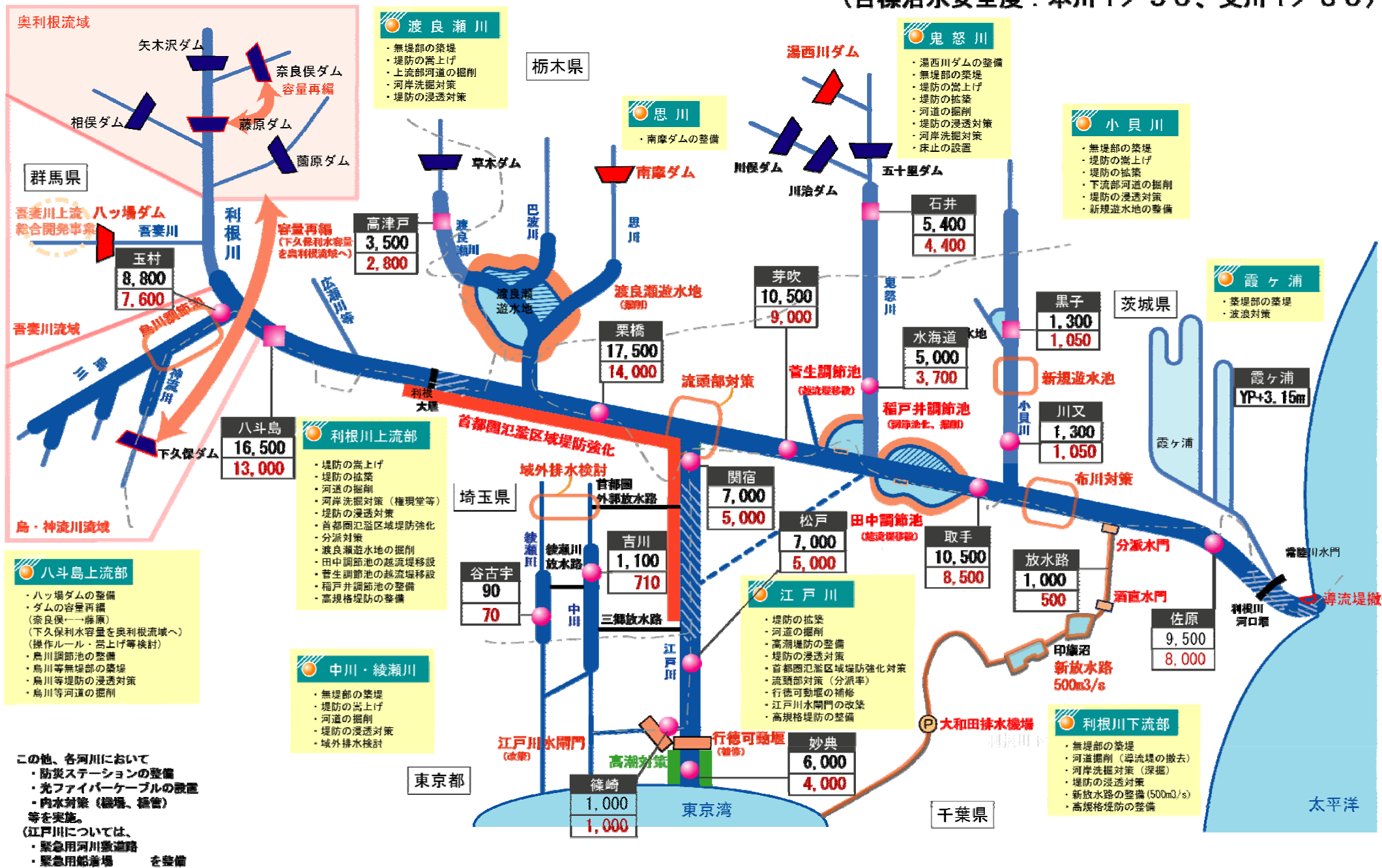
事業実施にあたり、調査・検討を要する事項

施設計画の詳細検討

烏川調節池等所定の効果を確保するための施設計画について調査検討を行う。

利根川水系における河川整備計画の主要メニュー(治水)

(目標治水安全度：本川1/50、支川1/30)



注) この資料は検討途上の資料であり、今後の検討によって変わりうるものである。 10

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

流水の正常な機能の維持

- ・ 渇水時における地盤沈下の防止、河川環境の保全や近年の少雨化傾向にも対応した利水安全度の確保、流水の正常な機能の維持のための必要な流量を計画的に確保

河川環境の整備と保全

礫河原、湿地、湖沼、汽水域等様々な河川環境が形成、良好な景観及び多様な動植物が生息する豊かな自然環境を保全するとともに、都市内及び近郊の身近なオープンスペース、自然とふれあえる場として多くの人々に利用されていることから、自然共生型の整備を図る。

水質

- ・ 関係機関や地域住民等と連携を図りながら、流入汚濁負荷量の削減対策、河川・湖沼等の浄化対策などの水質改善に努める

自然環境の保全

- ・ 多様な生態系を育む河川環境の保全に努める
- ・ 上流から海域まで動植物の生息・生育環境の縦断的な連続性の確保に努める
- ・ 湿地、汽水域、礫河原、瀬・淵の保全・再生に努める

人と川との豊かなふれあい

- ・ 沿川の自治体が立案する地域計画等との連携・調整を図り、河川利用に関する多様なニーズを十分反映した河川整備の推進
- ・ 自然とのふれあい、釣りやスポーツなどの河川利用、環境学習の場等の整備・保全を図る
- ・ 高齢者をはじめとして、誰もが安心して親しめるようユニバーサルデザインに配慮

河川景観の保全・形成

- ・ 礫河原と田園風景や下流部に広がる雄大な水郷地帯と調和した河川景観の保全に努める
- ・ 市街地における貴重な空間としての水辺景観の維持・形成に努める

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

流水の正常な機能の維持

水資源開発施設の整備とともに、関係機関と調整しながら広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、都市用水及び農業用水等の安定供給や流水の正常な機能を維持するため必要な流量の確保に努める。
河川の流況も踏まえつつ、河川流量を縦断的かつ時期的に的確に確保し管理するため、流水の正常な機能を維持するため必要な流量を定める地点の他、利根大堰上流、利根大堰下流、布川等の多地点での低水管理を実施する。

河川環境の整備と保全

水 質

環境基準を満足していない河川は、環境基準達成を目標とし、関係機関と連携し水質改善を図る。
水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンス）を策定している河川は、計画に基づき関係機関と連携して水質改善対策を実施する。
湖沼水質保全計画が定められている湖沼は、計画に基づき関係機関と連携して水質改善対策を実施する。
その他の河川は、現状の水質の維持に努める。必要に応じて流域の取り組みやニーズによって、新たな目標を設定し対策を検討する。

自然環境の保全

治水事業等と整合を図り、多様な動植物の生息・生育する豊かな河川環境の保全に努める。
魚類の遡上・降下が困難となっている箇所においては、河川の縦断的な連続性を確保する。
礫河原・湿地の動植物の生息・生育環境となる礫河原、湿地や湖岸植生の保全・再生を図る。

人と川との豊かなふれあい

自然環境との調和を図りつつ、親水性や川へのアクセスの向上、川とのふれあい・環境学習・地域交流の場等として地域計画及び地域のニーズを踏まえ、自治体等と連携して誰もが安心して親しめるようユニバーサルデザインに配慮した河川空間の整備を図る。

河川景観の保全・形成

歴史・文化・自然等の地域特性を踏まえた河川整備により、良好な河川景観の保全・形成を図る。

既設の矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相俣ダム、園原ダム、下久保ダム、草木ダム、渡良瀬貯水池、五十里ダム、川俣ダム、川治ダム、鬼怒川上流ダム群連携施設、北千葉導水路、利根川河口堰、霞ヶ浦開発、常陸川水門及び整備中のハッ場ダム、思川開発、湯西川ダム、霞ヶ浦導水により、「表 - 利根川水系正常流量一覧表」及び、きめ細かな低水管理を行うための「表 - 利根川水系低水管理のための流量一覧表」に示す地点等において流量を確保します。

また、支川における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、必要に応じて調査、検討します。

さらに、平成14年12月に一部変更された「利根川水系及び荒川水系水資源開発基本計画(通称:フルプラン)」に基づいて、水利用の安定化を図ります。

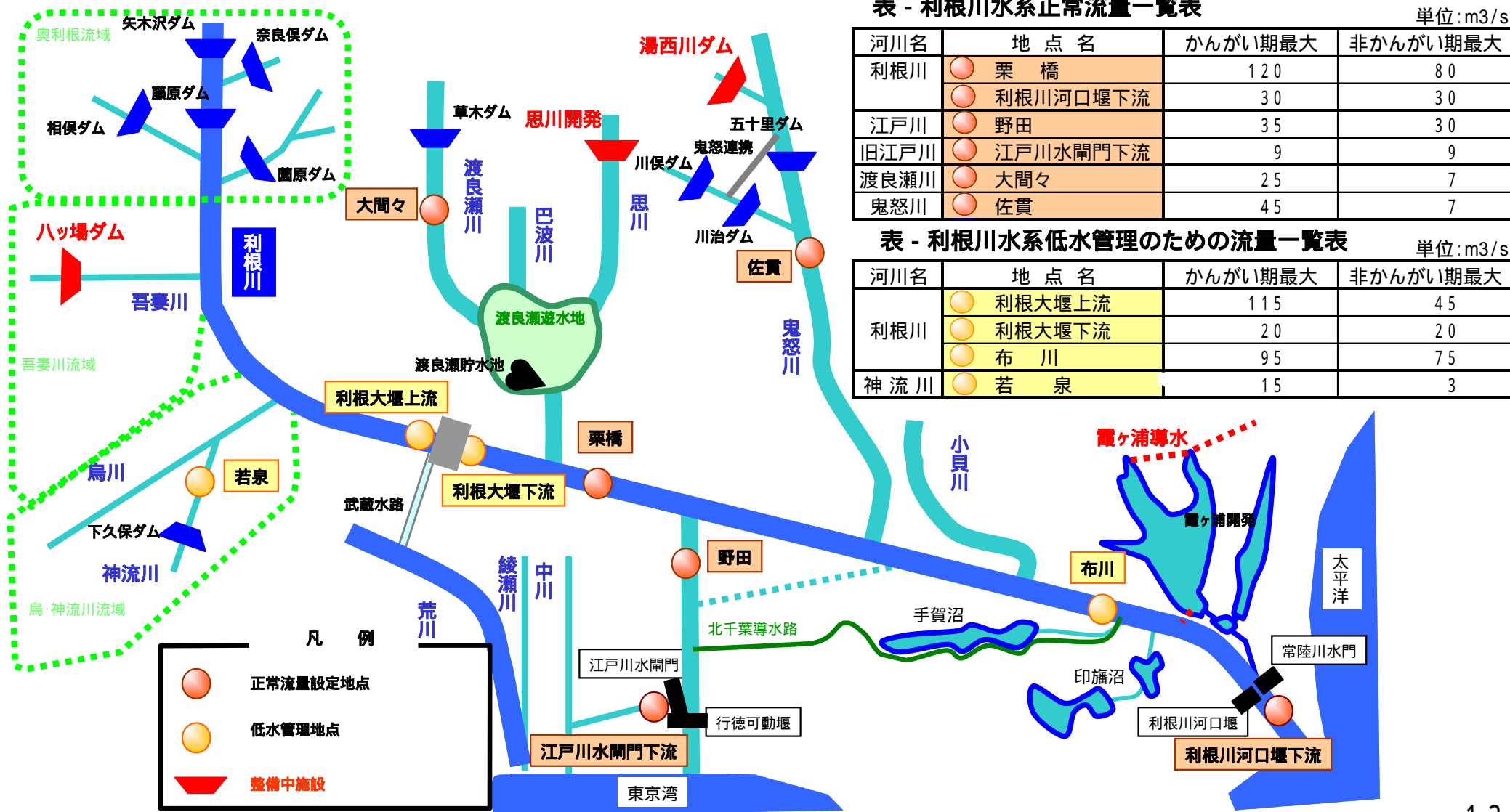


表 - 利根川水系正常流量一覧表

単位: m³/s

河川名	地点名	かんがい期最大	非かんがい期最大
利根川	栗橋	120	80
	利根川河口堰下流	30	30
江戸川	野田	35	30
旧江戸川	江戸川水閘門下流	9	9
渡良瀬川	大間々	25	7
鬼怒川	佐貫	45	7

表 - 利根川水系低水管理のための流量一覧表

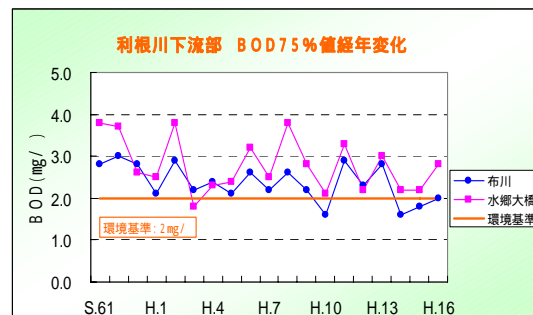
単位: m³/s

河川名	地点名	かんがい期最大	非かんがい期最大
利根川	利根大堰上流	115	45
	利根大堰下流	20	20
	布川	95	75
神流川	若泉	15	3

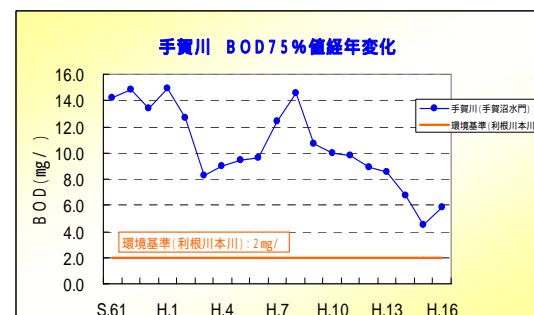
水 質

現 状 と 課 題

利根川下流部の水質は、環境基準を満たしていない。また、湖沼及び流入支川の水質汚濁が著しく、利根川本川への流出負荷対策が必要。

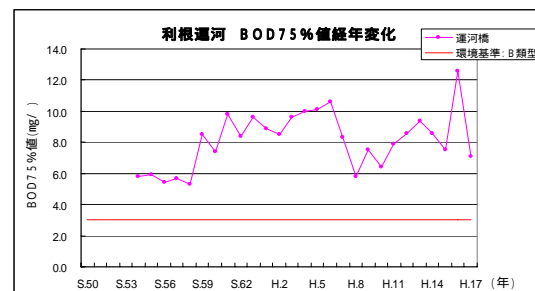


利根川下流部BOD75%値経年変化グラフ



手賀川BOD75%値経年変化グラフ

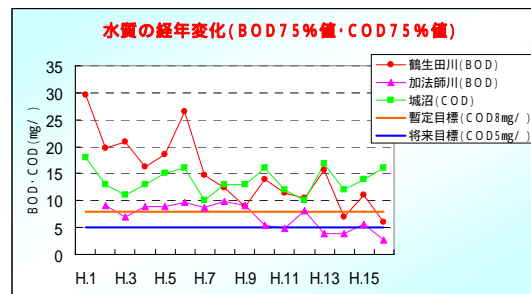
江戸川に流入する支川の水質汚濁が著しく、流出負荷対策が必要。



利根運河



鶴生田川は、流域の都市化の進展に伴って水質汚濁が進行して谷田川を経て渡良瀬貯水池の運用に影響を与えているため水質改善対策が必要となっている



鶴生田川(城沼)のアオコ発生状況

印旛沼を利用した洪水調節において、濁水による影響対策を行う必要がある。

河川整備計画の目標

関係機関と連携し、流域からの汚濁負荷の削減に努める。

利根川、江戸川に流入する支川・湖沼の水質改善対策及び流出負荷対策を関係機関と連携し実施する。

利根川では、渡良瀬貯水池の運用に影響を与えている鶴生田川等において、関係機関と連携して水質改善対策を図る。

主な整備内容

水質改善対策(江戸川、利根運河、手賀川)
(印旛沼)《治水事業で実施》

水質改善対策(鶴生田川)
鶴生田川等浄化導水(鶴生田川)

注)この資料は検討途上の資料であり、今後の検討によって変わらうものである。

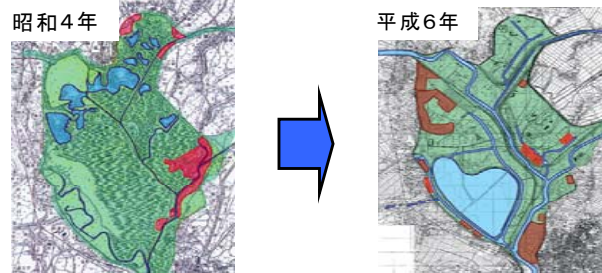
河川環境の整備と保全

現状と課題

- ◆多様な動植物が生息・生育する渡良瀬遊水地では、乾燥化が進行し、湿地の再生が必要となっている。
- ◆稲戸井調節池内には、湿地を含む動植物の生息環境があり、治水事業と整合を図った自然環境の保全が必要。

- ◆利根川河口堰では、既設魚道で遡上可能な魚種に限られるため多種の魚類の遡上を可能にするため改善が必要。

■ 水面 ■ 湿地、草原、林 ■ 耕作地 ■ 集落、人工地



河川の付替や調節池化により湿地の乾燥化が進み、湿地植物のヨシ等が陸性植物のオギ等へ遷移し、約50種の植物が見られなくなっている。



河川整備計画の目標

- 河道掘削等においては、動植物の生息・生育環境の状況を把握し多自然川づくりを推進する。
- 渡良瀬遊水地の治水容量増強にともなう掘削と合わせて、湿地環境の再生を図る。
- 稲戸井調節池の掘削において、湿地環境の保全を図る。
- 魚類の遡上・降下の阻害となる利根川河口堰の魚道機能の改善を図る。
- 江戸川水閘門については、改築とあわせて魚類の遡上・降下環境の改善を図る。

主な整備内容

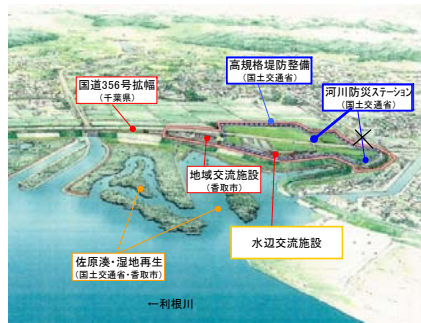
- 自然環境の保全・再生
 - 河道掘削箇所《治水事業で実施》
 - 渡良瀬遊水地の湿地再生《治水事業で実施》
 - 稲戸井調節池の湿地保全《治水事業で実施》
- 魚類の遡上・降下環境改善
 - 利根川河口堰
 - 江戸川水閘門《治水事業で実施》

人と川との豊かなふれあい

現状と課題

- ◆地域の歴史・文化・景観を活用した地域活性化につながる地域交流拠点の整備や川とのふれあいの場、環境学習の場となる水辺の楽校等の整備が求められている。

- ◆高齢者の方をはじめ、誰もが利用しやすいアクセス路の整備が求められている。



佐原広域交流拠点整備箇所 イメージ図



イメージ

- ◆水面利用が多く、秩序ある水面利用が必要となっている。
- ◆災害対策や水面利用の観点から航路の確保等の利用促進が望まれている。

注) この資料は検討途上の資料であり、今後の検討によって変わらうものである。

河川整備計画の目標

- 地域計画及び地域のニーズを踏まえ、親水性の向上を図り、水辺の楽校・水辺プラザ等の拠点整備を推進するとともに、ネットワーク化を図る。
- 水面利用の促進を図る。
- ※関係機関及び地域との連携・調整を図りながら進める。

主な整備内容

- 拠点整備
 - 利根川渡し船周辺整備
 - 利根大堰上流部河川敷整備
 - 佐原広域交流拠点整備
 - 江戸川環境整備(バリアフリー坂路整備含む)
 - 水辺の楽校(江戸川区、古河市、野木町)
 - 坂川水辺のネットワーク
- 水面利用促進(利根川、江戸川)

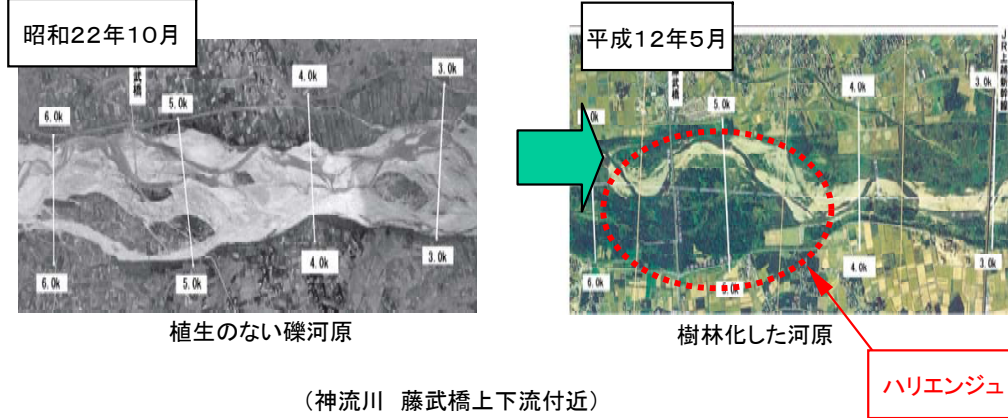
※整備箇所については、地域計画及び地域のニーズを踏まえ、必要に応じて新たな施工場所を追加するとともに、自治体と連携し、施工場所、内容の調整を図り整備を行う。

河川環境の整備と保全

現状と課題

◆神流川では河道内の樹林化に伴い、本来の礫河原が減少して礫河原固有の動植物の生息・生育環境が失われつつある。

◆占用横断工作物において、魚道等が設置されておらず、魚類の遡上に障害が生じているため、遡上環境の改善が必要となっている。



河川整備計画の目標

主な整備内容

- 河道掘削等においては、動植物の生息・生育環境の状況を把握し多自然川づくりを推進する。
- 環境学習や憩いの場となる拠点整備と合わせて、礫河原固有の動植物の生息・生育環境を確保するため、礫河原の保全・再生を図る。
- 魚類の遡上・降下の阻害となる占用横断工作物については、施設管理者と調整を図りながら魚道の設置及び機能改善を図る。

- 自然環境の保全・再生
河道掘削箇所《治水事業で実施》
- 魚類の遡上・降下環境改善（烏川）

人と川との豊かなふれあい

現状と課題

河川整備計画の目標

◆地域の歴史・文化・景観を活用した地域活性化につながる地域交流拠点の整備や川とのふれあいの場、環境学習の場となる水辺の楽校等の整備が求められている。



水辺の楽校イメージ

- 地域計画及び地域のニーズを踏まえ、親水性の向上を図り、水辺の楽校・水辺プラザ等の拠点整備を推進するとともに、可能な箇所はネットワーク化を図る。
- ※関係機関及び地域との連携・調整を図りながら進める。

主な整備内容

- 拠点整備
浄法寺地区環境整備（神流川）

※整備箇所については、地域計画及び地域のニーズを踏まえ、必要に応じて新たな施工場所を追加するとともに、自治体と連携し、施工場所、内容の調整を図り整備を行う。

注)この資料は検討途上の資料であり、今後の検討によって変わらうものである。

目的等について

目的(治水・利水・環境)に応じた維持管理、状態(日常・異常時)に応じた維持管理を行う

河川管理施設等を効果的・効率的に維持管理するために、河川の維持管理に必要な水準を定め、河川の維持管理に関する計画を作成し、河川の監視・評価・改善を一連で行うことにより、サイクル型維持管理体系を構築する

河川維持管理の主な項目

河道の維持管理・・・中州の発達、河岸の洗掘、河道内樹木など

出水期前、出水後の巡視・点検等により河道の変化を把握し、洪水の円滑な流下を図る

河川管理施設の機能の維持・・・堤防、護岸、河川構造物、電気通信施設など

確実な治水・利水・環境機能が発揮できるよう平常時から状況を把握し、必要に応じ適切な修繕を行うとともに、施設操作を迅速かつ確実に行い、流域の安全を確保する

防災施設の整備と活用

河川の被災に対する復旧拠点・緊急物資輸送等を確保するため、河川防災ステーションや緊急用河川敷道路等の整備を進めるとともに、これらの活用を図る

防災情報の共有、地域との連携

洪水時に迅速かつ的確な情報(水防警報・洪水予報等)を発信するとともに、地域の要請に応じて排水ポンプ車等の派遣を行い被害を最小限にとどめる。

また、浸水想定区域、重要水防箇所等の水防上重要な情報を地域と共有し、洪水ハザードマップ等が早期に作成・公表されるよう連携の強化を図るとともに、地域防災力(水防活動等)を維持・強化するために地域と協働し取り組む。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

流水の正常な機能を維持するため、流量・ダム貯留・水質等の把握及び情報提供を行うとともに、濁水・水質事故等への迅速な対応を図る

河川環境の保全

河川区域における不法行為等の監視を行い、地域住民と協働した取り組みを図る

基本的な考え方

河川の維持管理は、災害防止、河川利用、環境保全などの目的に応じた管理、日常や洪水時の河川状態に応じた管理、堤防や護岸などの河川管理施設の種類に応じた管理など広範、多岐にわたっている。

これらを効果的・効率的に実施するために、利根川・江戸川等各々に応じた維持管理の水準を確保しつつ、各河川の特徴にあった適正な維持管理基準を定める。

各河川における維持管理の特徴

利根川・江戸川

- ・利根川・江戸川は首都圏の氾濫を防御する堤防を有しており、**亀裂や法崩れ等の異常を確実に発見**するため**点検や除草等の適正な維持管理**や**洪水時等の危機管理に対応するための復旧拠点**としての**河川防災ステーション等の整備が必要**
- ・関東平野における利根川の河道においては、昔から付替工事等が繰り返されてきた。**土砂堆積による洪水の流下能力の低下等**、治水上の支障がないよう**河道の適正な維持管理が必要**
- ・利根川**上流ダム群**や**下流部の河川管理施設は、治水・利水上、重要な役割**を果たしており、これらの**適正な操作管理が必要**

渡良瀬川

- ・渡良瀬川中流部においては、粗い砂礫が河床材料となっており、**河道に堆積した土砂や河道内樹木の繁茂など流下能力の低下**が課題となっているため、治水上の支障がないよう**適正な河道の維持管理が必要**

鬼怒川

- ・鬼怒川の大谷川合流部から下流の澗筋は、砂州の間で網状を形成しており、**河床低下や構造物の局所洗掘**が見られるため、**河道及び構造物の適正な維持管理が必要**。
- ・鬼怒川**上流ダム群は、治水・利水上の重要な役割**を果たしており、これらの**適正な操作管理が必要**

小貝川

- ・小貝川は洪水の継続時間が長く、利根川本川からの背水の影響を強く受ける特徴があり、堤防に設置された樋管の多くは昭和10年～40年に建設されたものであり、**老朽化に伴う機能低下**に備え、**計画的な更新が必要**

霞ヶ浦

- ・全国2位の水面を持つ霞ヶ浦の管理延長は約260kmにおよび、そこに設置されているおよそ**1000カ所の河川管理施設を含む工作物の適正な維持管理が必要**。また、霞ヶ浦は**首都圏の水資源開発施設としての重要な役割**を担っており、河川管理施設としての常陸川水門などの**適正な操作管理が必要**

中川・綾瀬川

- ・中川・綾瀬川流域は約5割が市街化されており、河川区域内への**ゴミの不法投棄等**が頻発しているため、**日々確実な河川巡視が必要**
- ・流域は平坦な沖積平野であり、**洪水・湛水等による災害の防止・軽減**に資するため、放水路・排水機場などの**河川管理施設の適正な操作管理が必要**